

2026年4月30日
株式会社ダスキン

自宅の不具合、約7割が「経年劣化」と自己認識？ ダスキン ターミックス 「戸建て住宅のメンテナンスの実態とシロアリ対策」 に関する調査を実施

株式会社ダスキン（本社所在地：大阪府吹田市、社長：大久保裕行）が展開する、ターミックス事業（害虫獣の駆除と総合衛生管理）は、築10年以上の戸建ての持ち家に住む1,015人を対象に、「戸建て住宅のメンテナンスの実態とシロアリ対策」に関する調査を実施しました。

大切な自宅に長く快適に住み続けるためには、定期的なメンテナンスが欠かせません。しかし、シロアリの被害が起こりやすい「床下」は日常生活では目につかず、被害に気づきにくい場所でもあります。

今回、ダスキン ターミックスでは、築10年以上の戸建ての持ち家に住む方を対象に、「戸建て住宅のメンテナンスの実態とシロアリ対策」に関する調査を実施し、住宅のメンテナンスとシロアリ対策の必要性について調査しました。

■調査ハイライト

●家の不具合は「床のきしみ」が最多。約7割が原因を「経年劣化」と認識

- ・気になっている不具合の1位は「床がきしむ・ブカブカと沈む感じがする」。
- ・その原因を約7割が「経年劣化」と回答しており、シロアリなどの害虫被害は原因の一因として意識されにくいことが判明。

●約2割が「シロアリ被害の経験あり」。発見のきっかけは「羽アリが飛んでいた」や「床の異変」

- ・約2割が、過去にシロアリ被害に遭った経験があると回答。
- ・被害に気づいたきっかけは「羽アリを見た」「床がきしむようになった」が上位となり、目に見える不具合が出てから気づくケースが多い。

●約4割が被害リスクを「考えたことがない」。その理由は「これまで見たことがないから」

- ・自宅のシロアリ被害について「特に考えたことがない」という回答が最多。「対策をしているから大丈夫」は約2割にとどまる結果に。
- ・被害に遭う可能性が低いと思う理由は「これまで見たことがないから」が最多で、床下など見えにくい場所で進行する被害特性が十分に理解されていないことが明らかに。

●シロアリ対策の適切なタイミングは「よくわからない」が最多

- ・対策の適切なタイミングについては「よくわからない」という回答が最も多く、「不具合を感じてから」など対策が後手に回りがちに。

●業者選びで重視するのは「明瞭な料金」と「無料点検」。過度な営業は敬遠

- ・業者選定のポイントは「料金体系が明確」「無料見積り・無料点検の実施」「親切・迅速な対応」。

※害虫とは：人間の生活や農作物、住環境などに被害を与える昆虫や節足動物の総称。（例：ゴキブリ、シロアリ、アブラムシ、ダニ等）

■ 調査概要

【調査名】「戸建て住宅のメンテナンスの実態とシロアリ対策」に関する調査

【調査期間】 2026年4月7日（火）～2026年4月8日（水）

【調査方法】 株式会社 PRIZMA が提供する PRIZMA (<https://www.prizma-link.com/press>) によるインターネット調査

【調査人数】 1,015 人

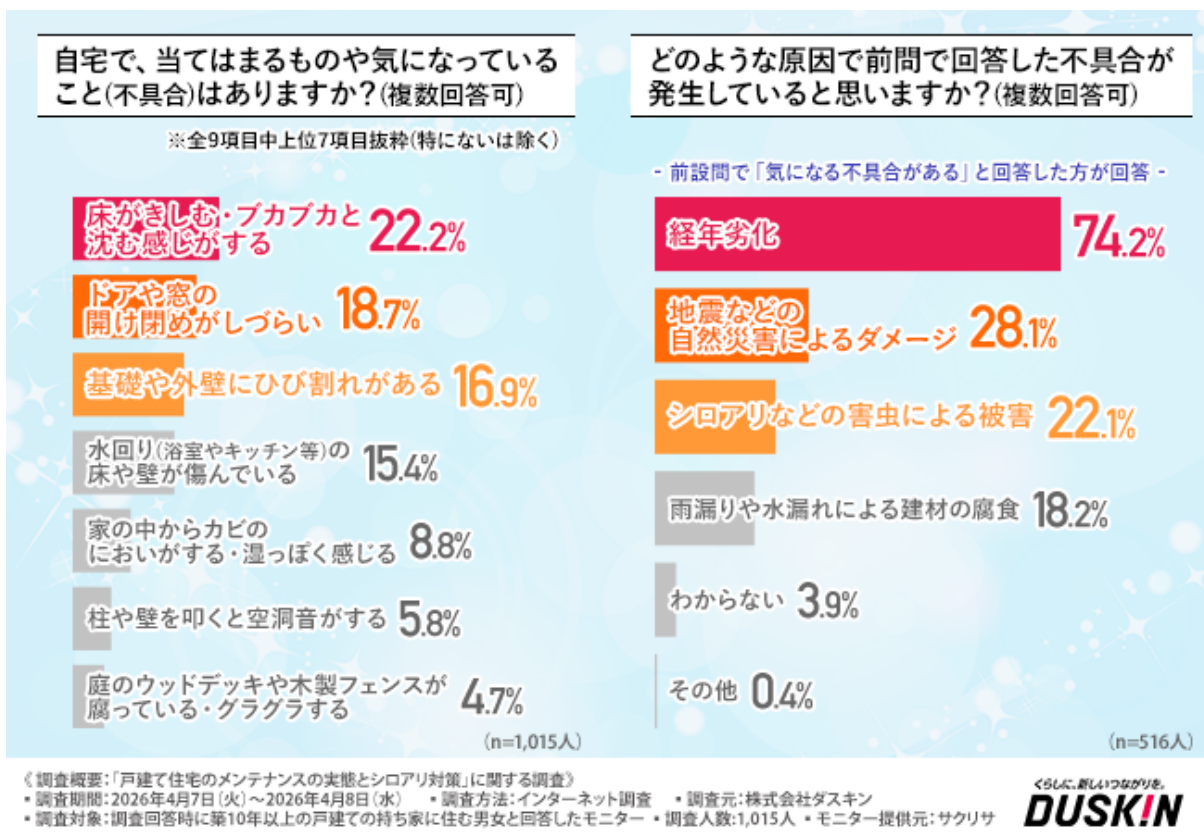
【調査対象】 調査回答時に築 10 年以上の戸建ての持ち家に住むと回答した男女

【調査元】 株式会社ダスキン (<https://www.duskin.jp/terminix/>)

【モニター提供元】 サクリサ

■ 調査結果

家の不具合は「床のきしみ」が最多。約 7 割が原因を「経年劣化」と認識

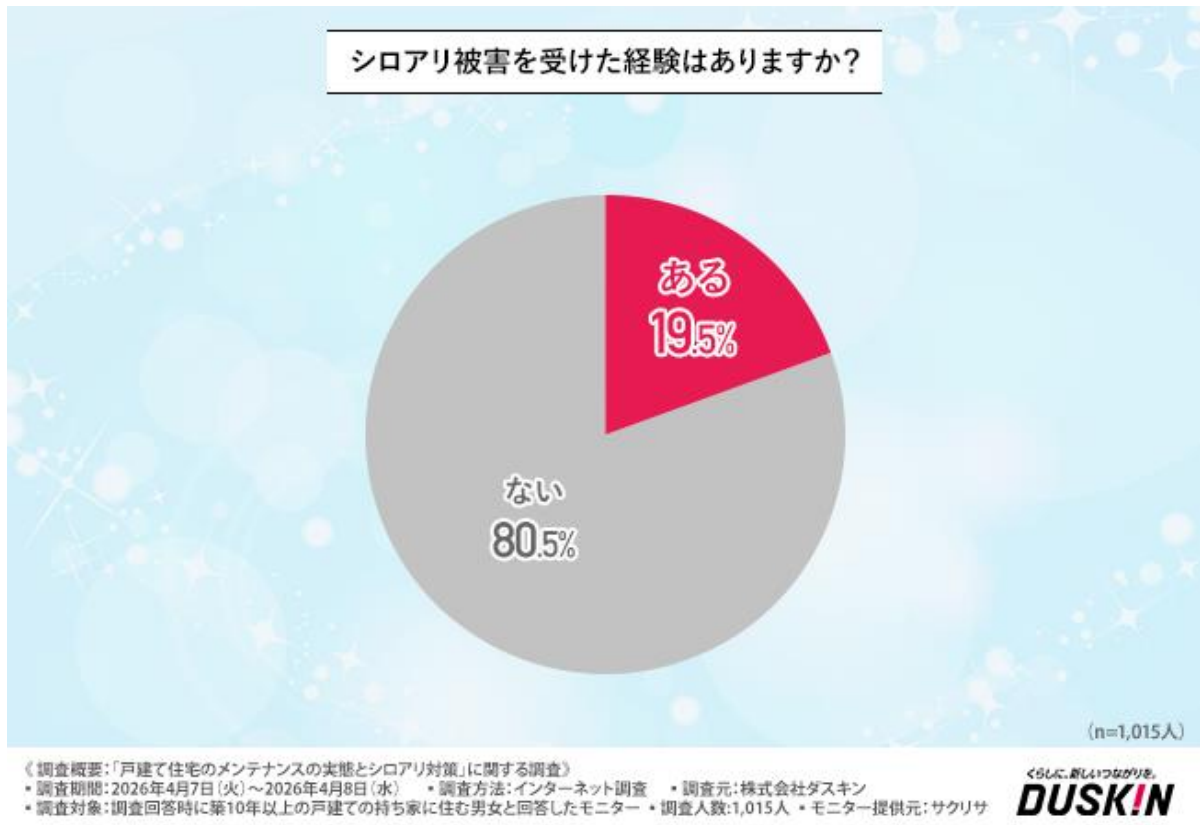


自宅について当てはまるものや気になっていること（不具合）について質問したところ、『床がきしむ・ブカブカと沈む感じがする（22.2%）』と回答した方が最も多く、『ドアや窓の開け閉めがしづらい（18.7%）』『基礎や外壁にひび割れがある（16.9%）』と続きました。

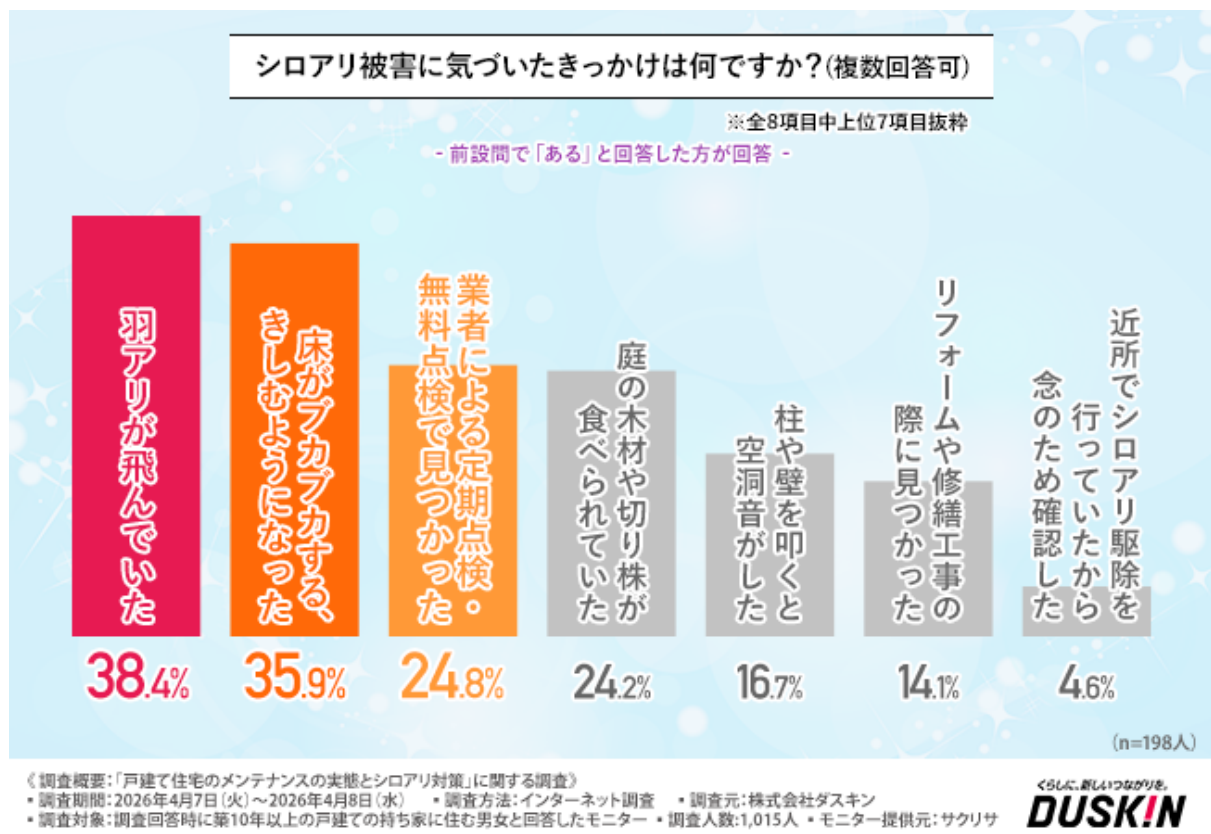
上位に挙げた回答は、いずれも住宅の構造や骨組みに関わる物理的な変化です。この結果から、日々の生活で体感する違和感や、ひび割れといった「視覚的・体感的な変化」が、自宅における不具合として認識されやすい傾向にあると考えられます。

この質問で、なんらかの「当てはまるものや気になっていること（不具合）」があると回答した方に、どのような原因で不具合が発生していると思うか質問したところ、『経年劣化（74.2%）』と回答した方が最も多く、『地震などの自然災害によるダメージ(28.1%)』『シロアリなどの害虫による被害（22.1%）』と続きました。『経年劣化』が約 7 割と圧倒的多数を占め、多くの方が家の不具合を「時間の経過による自然な変化」と捉えていることがわかります。一方で、「自然災害」や「シロアリなどの害虫」といった特定の外部要因を疑う方も一定数見られました。

約 2 割が過去にシロアリ被害の経験があると回答！被害に気づいたきっかけとは？



そこで、シロアリ被害を受けた経験はあるか質問したところ、約 2 割が『ある（19.5%）』と回答し、約 5 人に 1 人が実際に被害に遭っていることがわかりました。

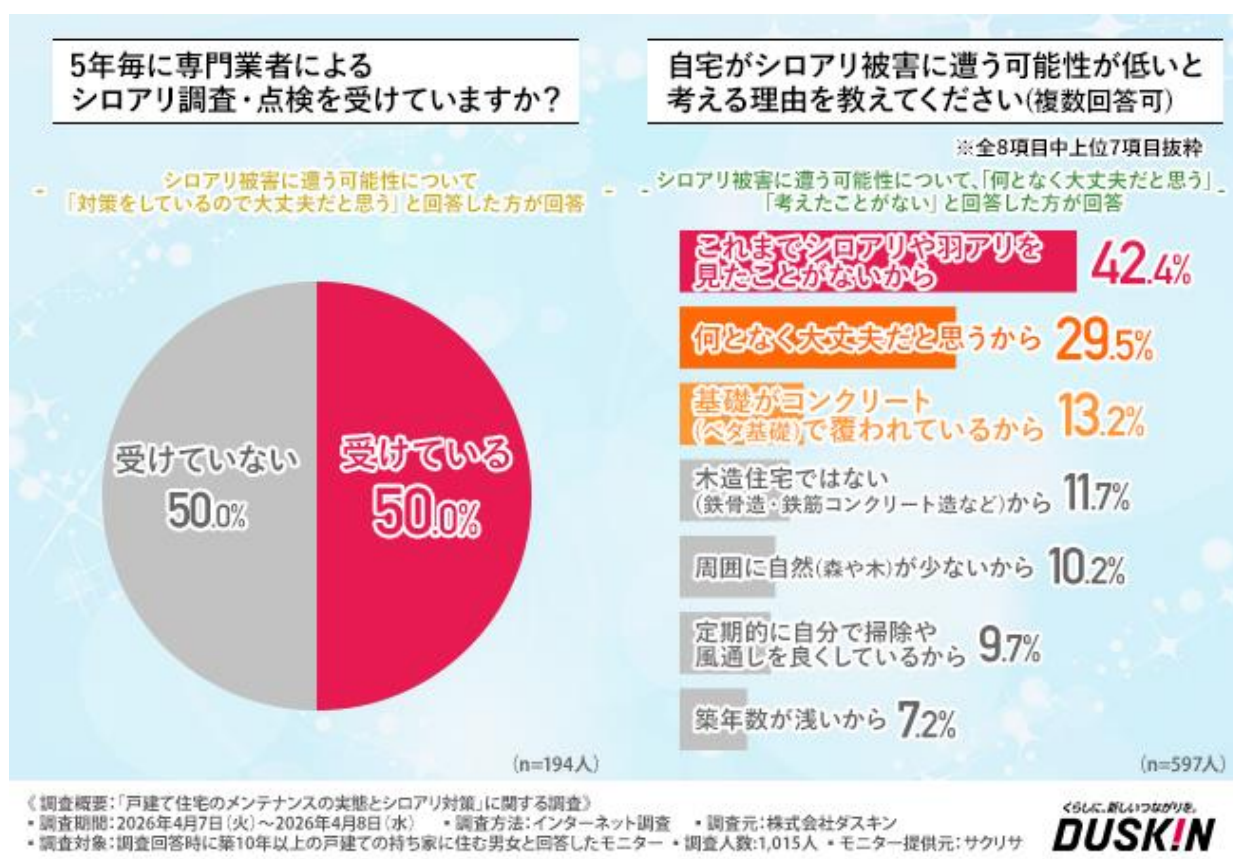


前の質問で『ある』と回答した方に、シロアリ被害に気づいたきっかけについて質問したところ、『羽アリが飛んでいた（38.4%）』と回答した方が最も多く、『床がブカブカする、きしむようになった（35.9%）』『業者による定期点検・無料点検で見つかった（24.8%）』と続きました。

これらの結果から、シロアリ被害は羽アリの発生や床の異変など、目に見える変化が起きてから初めて認識されるケースが多いことが分かります。また、一定数は業者の点検によって発見されていることも明らかになりました。

約 4 割が被害リスクを「考えたことがない」。その理由は「これまで見たことがないから」

シロアリ被害に遭う可能性について質問したところ、『特に考えたことがない（38.6%）』と回答した方が最も多く、『被害に遭うかもしれないと不安に思っている（22.1%）』『特に根拠はないが、何となく大丈夫だと思う（20.2%）』『（対策をしているので）大丈夫だと思う（19.1%）』という結果となりました。このうち『（対策をしているので）大丈夫だと思う』と回答した方は約 2 割にとどまっており、シロアリ被害という目に見えるリスクに対して、十分な当事者意識が浸透しているとは言い難い状況がうかがえます。また、不安を感じていても実際の行動には結びついていないという意識の課題も見えてきました。



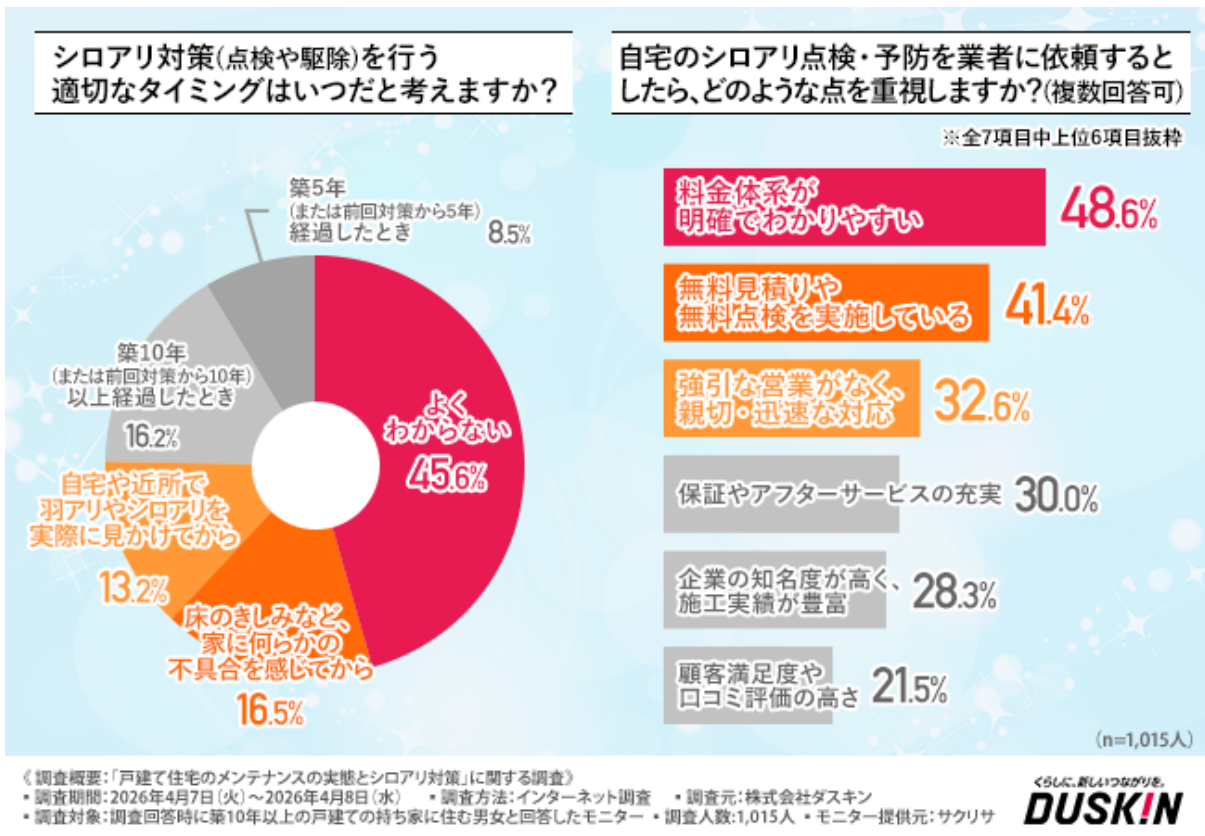
前の質問で『（対策をしているので）大丈夫だと思う』と回答した方に、5年毎に専門業者によるシロアリ調査・点検を受けているか質問したところ、『受けている（50.0%）』と回答した方は半数にとどまりました。

公益社団法人日本しろあり対策協会では、5年を目安としたシロアリ防除施工を推奨しています。一方で、適切な予防効果を維持するために欠かせない定期点検については「対策をしているから大丈夫」と認識している方でも、5年毎に点検を実施している方は半数にとどまることがわかりました。

また、シロアリ被害に遭う可能性について、『特に根拠はないが、何となく大丈夫だと思う』『特に考えたことがない』と回答した方に、自宅がシロアリ被害に遭う可能性が低いと考える理由について質問したところ、『これまでシロアリや羽アリを見たことがないから（42.4%）』と回答した方が最も多く、『何となく大丈夫だと思うから（29.5%）』『基礎がコンクリート（ベタ基礎）で覆われているから（13.2%）』と続きました。

この結果から、シロアリ被害のリスクは「実際に目にしたことがない」「何となく大丈夫そう」といった感覚的な判断に基づき、リスクとして実感されにくい状況がうかがえます。

シロアリ対策の適切なタイミングは「よくわからない」が最多



シロアリ対策（点検や駆除）を行う適切なタイミングはいつだと考えるか質問したところ、『よくわからない（45.6%）』と回答した方が最も多く、『床のきしみなど、家に何らかの不具合を感じてから（16.5%）』が続きました。「よくわからない」という回答が最多となったほか、具体的なタイミングを挙げた方の中でも「不具合を感じてから」「シロアリを実際に見かけてから」など、何らかの異変が生じてから対応するいわゆる「事後対応」を想定している方が約3割を占めました。こうした結果から、実害が出る前に行う定期的な予防の重要性や、点検サイクルの考え方については、必ずしも十分に浸透しているとは言えない状況がうかがえます。

業者選びで重視するのは「明瞭な料金」と「無料点検」。過度な営業は敬遠

シロアリ対策のタイミングについてさまざまな認識があるなか、自宅のシロアリ点検・予防を業者に依頼する場合に重視する点を質問したところ、『料金体系が明確でわかりやすい（48.6%）』との回答した方が最も多く、『無料見積りや無料点検を実施している（41.4%）』『強引な営業がなく、親切・迅速な対応（32.6%）』と続きました。「料金のわかりやすさ」や「無料点検」が上位に挙げられたことから、費用面への不安が業者へ依頼を検討する際の心理的ハードルの一つとなっている可能性がうかがえます。事前に金額の目安が把握できることや、気軽に相談できる環境が整っていることが、点検や予防を検討するきっかけにつながるものと考えられます。

ダスキン ターミニックスからのアドバイス

今回の調査で、自宅の不具合がシロアリ被害のサインである可能性が十分に意識されていない実態が見えてきました。自宅の不具合を単なる経年変化と捉えるのではなく、シロアリ被害の可能性も視野に入れて早めに点検を行うことが、被害の拡大を防ぐ第一歩となります。

シロアリは地中に巣を作り床下に侵入してくるため、日常生活の中でシロアリの兆候には気づきにくいですが、ちょっとした対策でそのリスクを軽減することは可能です。例えば、シロアリは湿気や木材を好むため以下のことにお気を付けください。

・外回りに木材やダンボールを放置しない

シロアリが餌として好むため、撤去しましょう。

・床下の通気を出来るだけ良くする

通気口の前に植木鉢やプランターを置いて塞いでしまうと、通気が悪くなり 床下に湿気が溜まってしまうため、シロアリが好む環境になってしまいます。

建物の構造や築年数、立地環境などによってはどれだけ対策をしても、シロアリのリスクは一定以上ありますので少しでもシロアリの兆候を感じた方、不安な方は、専門の業者に診断してもらうことをおすすめいたします。

また、羽アリを見た際、それがクロアリなのか羽アリなのかわからない場合は虫判定アプリ「虫みっけ！」のご使用もおすすめです。

「虫みっけ！」アプリのダウンロードはこちら（無料）↓



※iOS、Android どちらにも対応しています。

ダスキン ターミニックスとは

株式会社ダスキンが 1988 年から展開する、害虫獣の駆除と総合衛生管理の事業。薬剤をなるべく使用しない、人と環境に配慮した方法による予防管理に重点を置き、高度な専門知識と技術により、害虫が発生しにくい環境づくりを行っています。全国 544 拠点^(※1)に展開。

2025 年 6 月に GMO リサーチ&AI 株式会社実施した満足度調査[※]において「シロアリ駆除 顧客満足度ランキング総合 No.1」^(※2)を獲得

(※1) 2025 年 3 月末現在 (※2) GMO 顧客満足度ランキングについて：<https://r-portal.gmo-research.ai/ranking/about/>

シロアリ駆除サービスについて：<https://www.duskin.jp/special/terminix/>

ダスキン ターミニックス ホームページ：<https://www.duskin.jp/terminix/>

▽商品・サービス・その他のお問い合わせ

フリーダイヤル：0120-100100（年中無休 8：00～20：00）

■シロアリ新 CM 放映中！「シロアリ出たらダスキン。それ、あり」



2026年5月6日からダスキン ターミックスの新 TVCM「シロアリ出たらダスキン。それ、あり」を全国で放映します。
本 CM は、家族と“シロアリさん”が登場し、住まいの中で一緒にダンスを踊るユニークな内容となっています。

「はーねあり、しーろあり、ダスキンそれあり！」

「ゆーかしたに、しーろあり、ダスキンそれあり！」

「しーろあり出たら、ダスキンそれあり！」

というキャッチーな歌とダンスを通じて、見えないところで進行するシロアリ被害のリスクと対策の重要性をお伝えします。
ぜひ、合言葉「シロアリ出たらダスキン。それあり」を一緒に口ずさんでみてください。

また、無料調査・お見積りで最大3万円のQUOカードが当たるプレゼントキャンペーンを実施中です。自宅が心配な方、少しでも気になることがある方は、ぜひこの機会に無料調査をご利用いただき、お気軽にご相談ください。

↓↓「ダスキン。それ、あり」キャンペーンについてはこちら↓↓

<https://www.duskin.jp/campaign/>

※遷移先のキャンペーンページから自宅のエリアを選択してご確認ください。